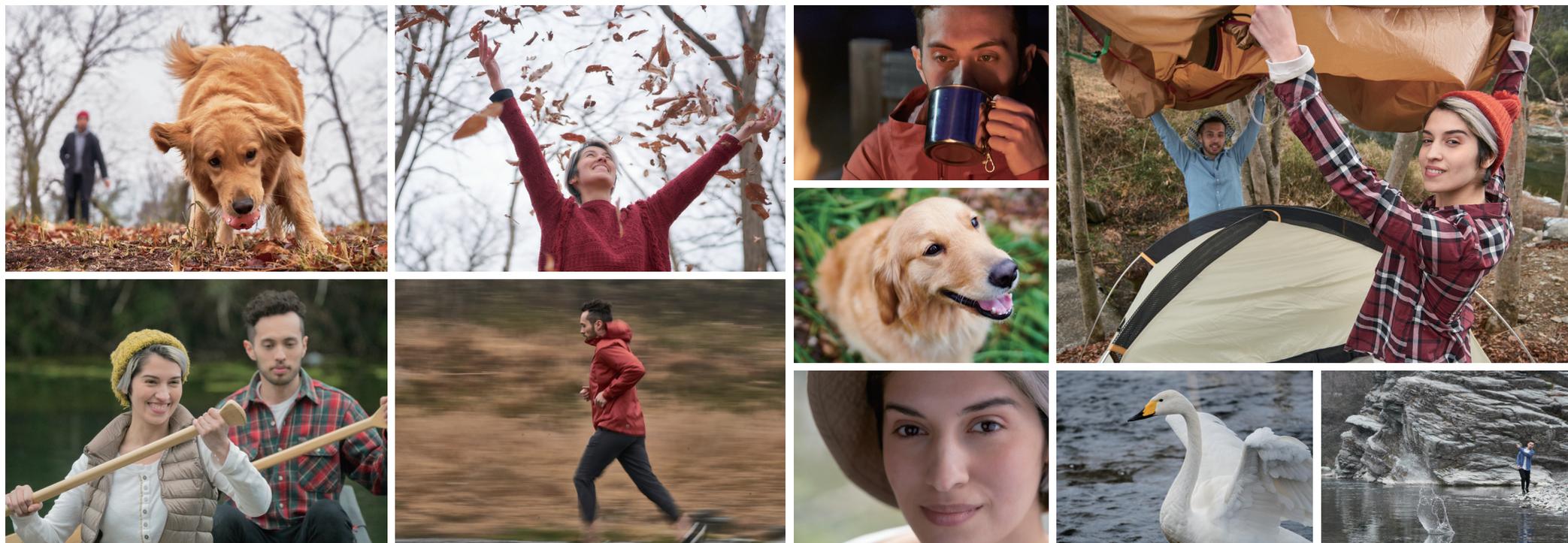


SONY



AF 設定ガイドブック

AF 機能の活用方法を解説

SONY



α6500

- ・“α”はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- ・このページに記載している他社の社名／製品名は、識別するためだけに使用しています。社名／製品名は、その会社の商標または登録商標です。
- ・画面の表示や効果は機能を説明するために使用しており、実際と異なる場合があります。
- ・画像はα 6500で撮影したものです。

The Power of Imaging

■ AF設定ガイド

- P.3 | 基本設定 動いている被写体を撮影する場合に汎用性の高い基本的な設定
- P.5 | Case 1 動き回る被写体にピントを合わせ続ける 中央ボタン押しロックオンAF
- P.7 | Case 2 ピンポイントで被写体を狙う フレキシブルスポット
- P.9 | Case 3 一定の範囲で動く被写体を撮影する ゾーン
- P.11 | Case 4 動く物の中で人物にピントを合わせ続ける 顔検出
- P.13 | Case 5 瞳にピントを合わせて撮影する 瞳AF
- P.15 | Case 6 動きが予測しにくい被写体にピントを合わせる AF-C時の優先設定
- P.17 | Case 7 スピード感のある写真を撮影する 流し撮り
- P.19 | Case 8 瞬時にピントを切り替える タッチフォーカス
- P.21 | Case 9 浅い深度で素早くピントを合わせる ダイレクトマニュアルフォーカス

- P.23 | Case10 ピントの位置を固定して撮影する AFオン

■ 動画撮影 AF設定ガイド

- P.25 | 人物の顔に安定してピントを合わせ続ける AF被写体追従感度（動画）
- P.26 | フォーカスポイントを画面内で移動させる（ピン送り） AF駆動速度（動画）

■ 使いこなし

- P.27 | タッチ操作
- P.28 | カスタムキー（撮影）

■ 各種設定の説明

- P.29 | 撮影モード・フォーカスモード
- P.30 | フォーカスエリア

動いている被写体を撮影する場合に汎用性

■基本となる5つのおすすめ設定

この設定は動きのある被写体を撮影するときに広く活用することができる設定です。動く被写体に対し、画面の広範囲で捉え、高速AF性能と精度の高いAF追従性で正確にピントを合わせます。

撮影モード

シャッター速度を任意に設定できるSモードに設定します。



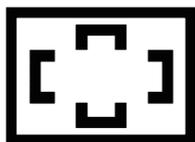
フォーカスモード

シャッターボタンを半押ししている間、動いている被写体にピントを合わせ続ける [AF-C] に設定します。



フォーカスエリア

フレーム全体のどこでも自動でピントを合わせる [ワイド] に設定します。



の高い基本的な設定

ドライブモード

シャッターボタンを押している間、連続して撮影する [連続撮影] に設定します。



シャッタースピード

被写体ブレをしないよう、1/500秒以上の速いシャッタースピードに設定します。



動き回る被写体にピントを合わせ続ける



SEL35F14Z 1/2000 F2.8 ISO1000

愛犬とのキャッチボール。犬の躍動感ある一瞬の表情を狙いました。

撮影のポイント

- たなびく毛の流れをしっかりと写し止めたいので、シャッタースピードは1/2000に設定しました。
- 被写体を常に捕捉し続けられるように、[フォーカスモード] は [AF-C] にセットします。
- [連続撮影:Hi] で撮影し、最も動きを感じる一瞬を切り出しました。
- ダイナミックな遠近表現のために、レンズは広角のものを選び、迫ってくる迫力を表現するため、地面付近にカメラを構えました。



おすすめ撮影設定

S 撮影モード [シャッタースピード優先]

Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]

AF-C フォーカスモード [AF-C]

フォーカスエリア [ワイド]



中央ボタン押しロックオンAF

フレーム内を別の被写体が横切るシーンでは、中央ボタン押しロックオンAFがとても有効です。ロックオンすると白い2重枠が表示され、手前に障害物が現れてもロックオンした被写体を追いつけます。



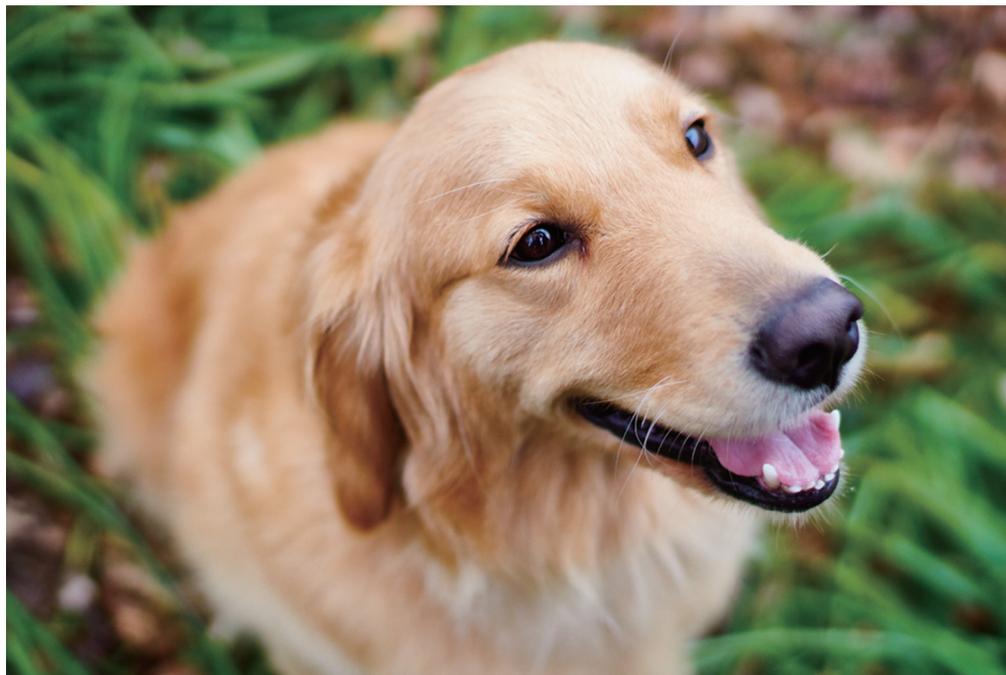
操作方法

- 1 MENU → (撮影設定1) → [中央ボタン押しロックオンAF] → [入] を選ぶ。
- 2 ターゲット枠を被写体に合わせて、コントロールホイールの中央を押す。
- 3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、撮影する。

ヒント

モニター撮影時は、タッチパネル操作でも被写体を選べます。詳しくは27ページをご覧ください。

ピンポイントで被写体を狙う



SEL35F14Z 1/4000 F1.4 ISO1000

つぶらな瞳にピンポイントでピントを合わせます。背景にグリーンを選び、開放絞りで大きくぼかすことで、より被写体が引き立つ印象になります。

撮影のポイント

【フォーカスエリア】を【フレキシブルスポット:M】に設定。コントロールホイールの上/下/左/右で測距枠の位置を移動します。測距枠のサイズはS,M,Lから選べます。

Sサイズを選ぶとより細かな部分にピント合わせができますが、その範囲内に検出できる被写体のコントラストがない場合にはピントが迷いやすくなります。被写体に応じてサイズを設定します。

【拡張フレキシブルスポット】は、測距枠のサイズはSと同じで、ピントが合わない場合はピント合わせの範囲をフレキシブルスポットの周辺まで拡げてピントを合わせます。

おすすめ撮影設定



フレキシブルスポットとフォーカススタンダード

カスタムキー設定で好みのキーに【フォーカススタンダード】を割り当てると、ワンステップでフレキシブルスポットの測距枠を表示できます。

【フォーカススタンダード】割り当て方法

MENU → (撮影設定2) → [カスタムキー (撮影)] → 希望のキーに【フォーカススタンダード】を設定する。

撮影方法

- 1 【フォーカススタンダード】を割り当てたキーを押す。
- 2 【フレキシブルスポット】の測距枠が表示されたら、コントロールホイールの上/下/左/右で測距枠の位置を移動する。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

ヒント

- ・【フォーカスエリア】が【ゾーン】、【拡張フレキシブルスポット】のときも同じように操作できます。
- ・モニター撮影時は、タッチパネル操作でも測距枠の移動ができます。詳しくは27ページをご覧ください。

一定の範囲で動く被写体を撮影する



SEL1635Z 1/125 F4.0 ISO125

テントを持ち上げる動きのあるシーンをプログラムオートで撮影しました。

振り下ろす手はかなり高速なので、1/4000のシャッタースピードでブレのない一瞬を写し止めました。シャッタースピードを1/500程度にすれば、手の部分だけを流れるように描写することもできます。



SEL70300G 1/4000 F5.6 ISO3200

おすすめ撮影設定

P 撮影モード [プログラムオート]

Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]

AF-C フォーカスモード [AF-C]

ゾーン フォーカスエリア [ゾーン]



撮影のポイント

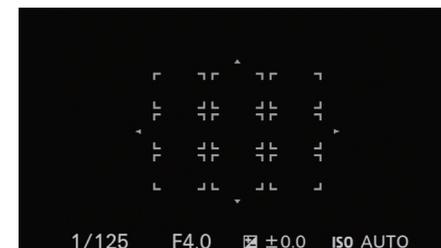
画面内の一定の範囲で動く被写体を撮影するには [フォーカスモード] を [AF-C]、[フォーカスエリア] を [ゾーン] に設定します。作例では右側の女性を囲むようにゾーンの測距枠を設定しています。

ゾーン

ゾーンは9個のフォーカスエリアに分かれており、フレキシブルスポットよりも広い範囲でピントを合わせます。

操作方法

[フォーカスエリア] から [ゾーン] を選択し、コントロールホイールの上/下/左/右で測距枠を移動します。



ヒント

カスタムキー設定で好みのキーに [フォーカススタンダード] を割り当てると、ワンステップでゾーンの測距枠を表示できます。また、モニター撮影時は、タッチパネル操作でも測距枠の移動ができます。詳しくは27ページをご覧ください。

動く物の中で人物にピントを合わせ続ける



SEL35F14Z 1/4000 F1.4 ISO320

舞い上がる落ち葉と一瞬の表情を狙い、撮影しました。

撮影のポイント

地面から落ち葉をすくって舞い上げる一連の動作は、ゆっくり→高速→ゆっくりと変化します。ここでは、もっとも高速な舞上げる動作を想定して、シャッタースピードを1/4000に設定しました。

舞い散る葉を流れるように写すには、シャッタースピードを1/60程度に設定します。このとき、人物が投げ終わったままの姿勢をキープできれば、人物は静止したまま、舞い散る葉だけを流れるように表現できます。

おすすめ撮影設定

S 撮影モード [シャッタースピード優先]

Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]

AF-C フォーカスマード [AF-C]

+ フォーカスエリア [ワイド]

顔検出 [入]

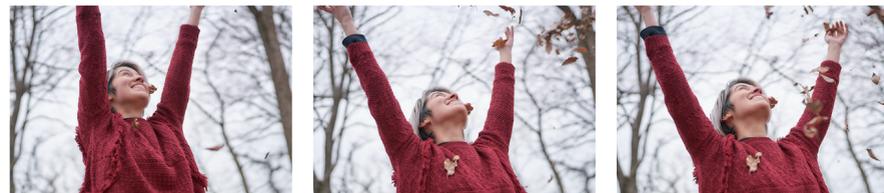


顔検出と連続撮影で決定的瞬間を捉える

決定的瞬間を逃さないために、連続撮影モードでたくさん写すのがポイントです。[顔検出] を [入] にすれば、落ち葉がレンズの手前に来て、人物にピントを合わせ続けます。

[顔検出] 設定方法

MENU → (撮影設定 1) → [顔検出/スマイルシャッター] → 希望の設定を選ぶ。



瞳にピントを合わせて撮影する



SEL70200G 1/60 F4.0 ISO3200

瞳AFを用いて、キャンプファイヤーが映る瞳を狙いました。ポートレート撮影におすすめです。

撮影のポイント

- 暗めの明かりの中でも被写体を捉え、背景をぼかすために、絞り開放で撮影。絞り優先モードでは、適正な露出になるようシャッタースピードは自動で設定されます。
- 目にピントを合わせられないときは、顔を検出して顔にピントを合わせますが、フレーム内に顔全体が入っていない場合など、人物の顔を検出できない場合は瞳AFも機能しません。このような場合は「フォーカスエリア」を「フレキシブルスポット」にして目にピントを合わせます。
- 動いていない人物を撮影する場合、「フォーカスモード」は「AF-S」にセットします。「AF-C」ならば、人物が動いても目にピントを合わせ続けます。

おすすめ撮影設定



A 撮影モード [絞り優先]

ドライブモード [1枚撮影]

フォーカスモード [AF-S] または [AF-C]

フォーカスエリア [ワイド]

瞳AF

瞳AFを使えば自動で目にピントを合わせることができます。カスタムキー設定で「瞳AF」をいずれかのキーに割り当てることで使えるようになります。

「瞳AF」割り当て方法

MENU → (撮影設定2) → [カスタムキー(撮影)] → 希望のキーに「瞳AF」を設定する。

シャッターボタンと同時押しするのでAF/MFボタンに設定するのがおすすめです。



撮影方法

- 人物の顔にレンズを向け、「瞳AF」を割り当てたキーを押す。

ヒント

目にピントが合うと、目に緑の枠が表示されます。「フォーカスモード」が「AF-S」のときは、一定時間で枠が消えます。

- 「瞳AF」のキーを押したまま、シャッターボタンを押す。

ヒント

すでに瞳にピントが合っているので、シャッターボタン半押しの必要はありません。

動きが予測しにくい被写体にピントを合わせる



SEL70300G 1/4000 F5.6 ISO200

高速シャッターで撮影することで、白鳥の真綿のような羽根と、羽根に浮かぶ水滴の質感まで捉えています。

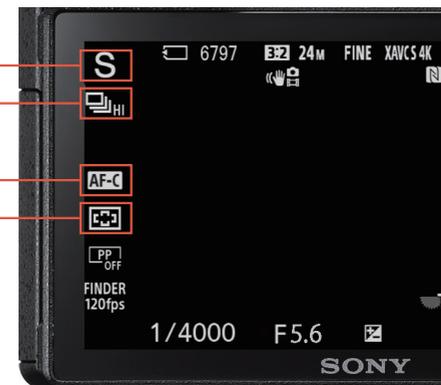


SEL70300G 1/4000 F5.0 ISO6400

愛犬の水浴び後の一瞬のしぶきも、シャッタースピードを1/4000以上に設定すれば、水滴を止まったように写すことができます。

■ おすすめ撮影設定

- S** 撮影モード [シャッタースピード優先]
 Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]
AF-C フォーカスモード [AF-C]
 フォーカスエリア [ワイド]



撮影のポイント

- 予測しにくい動物の動きに追従するため [フォーカスモード] は [AF-C] に設定し、連続撮影で被写体をとらえ続けます。
- シャッタースピード優先モードは、希望のシャッタースピードから素早く露出を決められます。動物の動きや水滴を止まったように写したい場合は高速に、流れる軌跡のように表現したい場合は遅めに設定すれば、動く被写体をさまざまに表現できます。

■ AF-C時の優先設定

[AF-C] で連続撮影するときは、シャッターボタンを押している間中、被写体にピントを合わせ続けますが、動きの速い被写体の場合、タイミングによってはピントが合わない瞬間があることも想定されます。

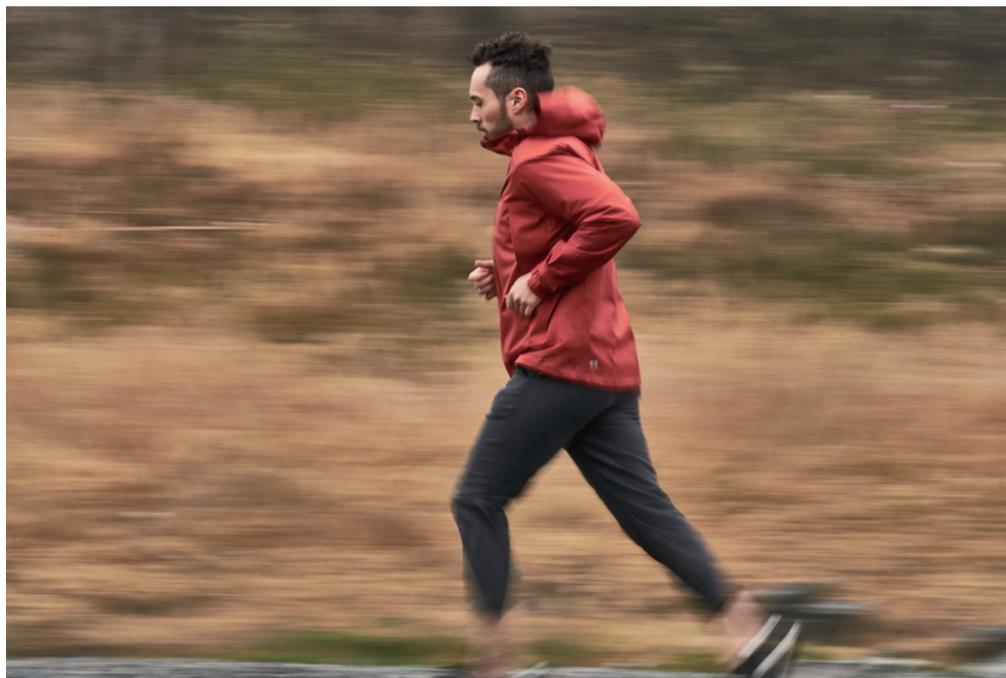
初期設定は [バランス重視] です。ピントを合わせることに、シャッターを切ることのバランスをとった撮影をします。[リリース優先] はピントが合わなくてもシャッターが切れるので、ピントが合っているかどうかによらず、とにかく撮影を優先したいときに設定します。

【AF-C時の優先設定】設定方法

MENU → (撮影設定1) → [AF-C時の優先設定]
 →希望の設定を選ぶ。



スピード感のある写真を撮影する



SEL70300G 1/20 F25 ISO250

流し撮りの技法を使って、ランナーのスピードと動きを表現しました。

撮影のポイント

- 流し撮りは、パン（カメラ雲台を横に振ること）ができる三脚を使用して撮影します。
- 三脚使用時は「手ブレ補正」を「切」にします。
- 撮影モードは「シャッタースピード優先」にします。
被写体の速度に合わせてシャッタースピードを変えます。ランナーの場合は、1/20くらいに設定。走る車の場合は、1/60から1/125が目安です。
- 移動する被写体に常にピントを合わせたまま追いつけるために、「フォーカスモード」は「AF-C」に設定します。

おすすめ撮影設定

S 撮影モード [シャッタースピード優先]

Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]

AF-C フォーカスモード [AF-C]

フォーカスエリア [ワイド]

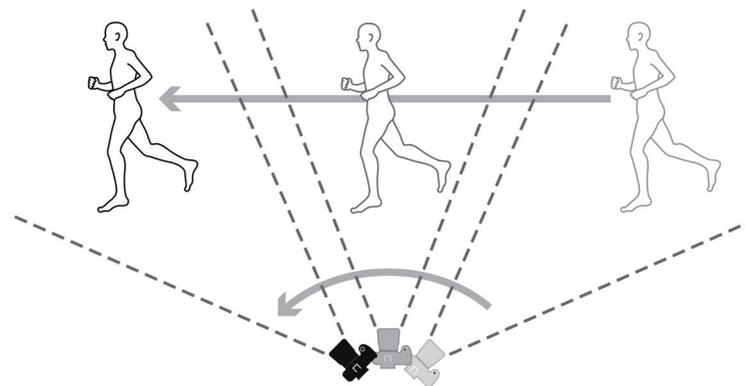
顔検出 [入] / 手ブレ補正 [切]



三脚を用いた流し撮り撮影方法

流し撮りはランナーの動きとシンクロするように、カメラを左右に振りながら撮影します。シャッターを切る前から追い続け、シャッターを切ったあともそのままカメラを振り続けるのが成功のポイントです。

三脚を使用することによって、動く被写体を鮮明に、そして背景の流れをきれいに撮影することができます。



瞬時にピントを切り替える



SEL70300G 1/500 F5.6 ISO3200

ボートを漕ぐ二人を、川岸から望遠レンズで撮影。タッチ操作を使えば素早いピント合わせが可能です。

撮影のポイント

長い焦点距離で、被写体をこの程度の大きさでフレーミングする場合、[フォーカスエリア]は[ゾーン]がおすすめです。タッチ操作が有効な場合、測距枠をタッチで移動できます。



SEL70300G 1/500 F5.6 ISO3200

おすすめ撮影設定

A 撮影モード [絞り優先]
Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]

AF-C フォーカスモード [AF-C]

ゾーン フォーカスエリア [ゾーン]

顔検出 [入]



タッチフォーカス（モニター撮影時）

モニター撮影時、モニターにタッチするだけでフォーカス位置や測距枠の位置を変更できます。構図を変更することなく、ピント合わせを直感的に行えます。

設定方法

MENU → (セットアップ) → [タッチ操作] → [タッチパネル+タッチパッド] または [タッチパネル操作のみ] に設定する。

撮影方法

- 1 モニターのピントを合わせたい位置にタッチする。
[フォーカスエリア] が [ワイド] または [中央] の場合はタッチしたところにフォーカスする。[中央ボタン押しロックオンAF] が [入] だとロックオンAFが働く。
[フォーカスエリア] が [ゾーン]、[フレキシブルスポット]、[拡張フレキシブルスポット] のときは、タッチで測距枠の移動が可能。
- 2 シャッターボタンを半押しすると枠内にピントが合うので、シャッターボタンを押して撮影する。

ヒント

タッチ操作について、さらに詳しくは27ページをご覧ください。

浅い深度で素早くピントを合わせる



SEL90M28G 1/125 F2.8 ISO125

マクロレンズと開放絞りの組み合わせで、とても深度の浅い写りに設定しました。

撮影のポイント

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)は、オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動でピント位置を微調整できます。DMFと以下のピント補助機能を組み合わせると、素早く緻密なピント合わせが可能です。ピント合わせの位置がシビアなマクロ撮影時などにおすすめです。

- MFアシスト：画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします。
- ピーキング：ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調します。
- ピント拡大：撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

おすすめ撮影設定

- A** 撮影モード [絞り優先]
 - ドライブモード [1枚撮影]
 - DMF** フォーカスモード [DMF]
 - フォーカスエリア [ゾーン]
- ピント拡大 / MFアシスト



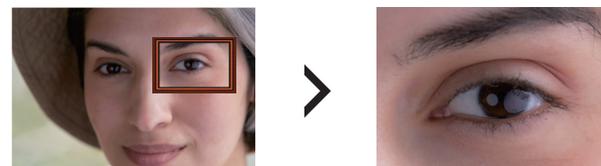
DMFとピント拡大で正確にピントを合わせる

[ピント拡大] 設定方法

- 1 MENU → (撮影設定2) → [カスタムキー設定 (撮影)] → 希望のキーに [ピント拡大] を設定する。
- 2 MENU → (撮影設定1) → [ピント拡大中のAF] を [入] にする。

DMFとピント拡大を使った撮影方法

- 1 [ピント拡大] を設定したキーを押して、オレンジの枠を表示する。
- 2 コントロールホイールの中央ボタンを押して画像を拡大し、上/下/左/右で位置を調整する。



- 3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。そのままフォーカスリングを回すとピントを微調整できる。
- 4 シャッターボタンを押しこんで撮影する。

ピントの位置を固定して撮影する

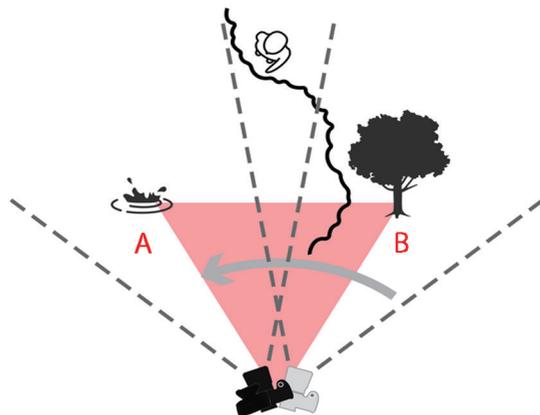


SEL70200G 1/4000 F4.0 ISO3200

飛び石が通過する位置を予測して、事前にその位置でピントを固定（置きピン）。石と水しぶきをしっかりと写し止めるために、1/4000の高速のシャッターで撮影しました。

撮影のポイント

置きピンをするには、図のようにピントを合わせたい位置（A）と同じ距離にある目印（B）を見つけるのがコツです。目印（B）でピントを合わせてピントを固定し、カメラを振って（A）にレンズを向け、被写体がくる瞬間を待って撮影します。



おすすめ撮影設定

S 撮影モード [シャッタースピード優先]

 Hi ドライブモード [連続撮影:Hi]

AF-S フォーカスモード [AF-S]

 フォーカスエリア [ゾーン]



AF オン

シャッターボタンを半押ししなくても、ほかのボタンでピント合わせができるので、シャッターチャンスを待つ間、安定した構え方で撮影に備えることができます。作例のような、置きピンでの撮影時におすすめです。

[AF オン] 設定方法

MENU →  (撮影設定2) → [カスタムキー(撮影)] → 希望のキーに [AF オン] の機能を設定する。

置きピンでの撮影時は、[シャッター半押しAF] と [プリAF]、[アイスタートAF] を [切] にする。

撮影方法

1 [AF オン] を割り当てたキーを押し、ピントを合わせる。

ヒント

[AF-S] の場合、キーを放すとフォーカスロックされます。

2 シャッターチャンスがきたら、シャッターボタンを押して撮影する。

Movie

人物の顔に安定してピントを合わせ続ける



おすすめ設定

AF-C フォーカスモード [AF-C]

[+] フォーカスエリア [ワイド]

AF 被写体追従感度 (動画) [標準]

顔検出 [入]

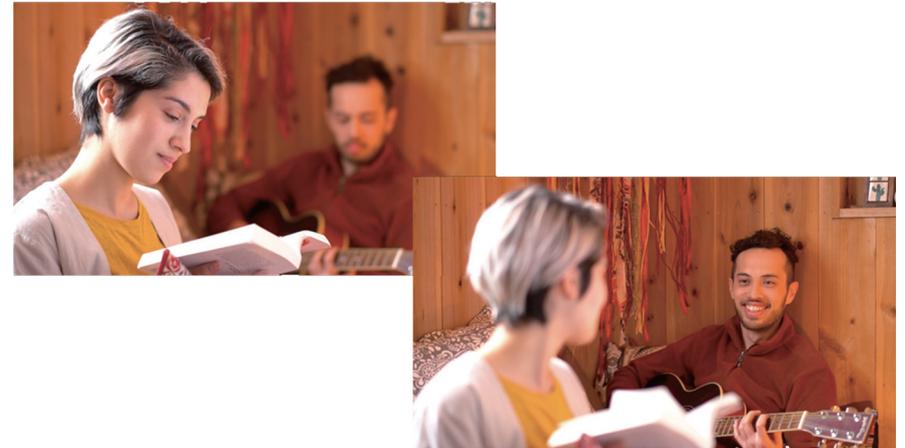


撮影のポイント

- 顔にピントを合わせ続けたい場合は、[フォーカスエリア] を [ワイド] に設定し、フォーカスエリア枠と顔検出枠が重なるようにします。
- [個人顔登録 (新規)] であらかじめ顔情報を登録しておく、[顔検出] が [入 (登録顔優先)] のときに、登録された顔を優先して顔検出を行います。複数の顔を登録したときは、登録した順で優先順位が設定されますが、[個人顔登録 (優先順序変更)] で優先順を変更することができます。
- 障害物があっても狙った被写体にピントを合わせ続けるには、[AF 被写体追従感度 (動画)] を [標準] にします。

Movie

フォーカスポイントを画面内で移動させる (ピン送り)



おすすめ設定

AF-C フォーカスモード [AF-C]

[+] フォーカスエリア [ワイド]

AF 駆動速度 (動画) [低速]

顔検出 [入]



撮影のポイント

- 動画撮影中にピントを合わせる被写体を変えたい場合は、タッチ操作によるスポットフォーカスがおすすめです。
- [AF 駆動速度 (動画)] を [低速] にすると、なめらかにピン送りができます。
- ファインダー撮影時はスポットフォーカスが使用できません。[フォーカスエリア] を [ゾーン] または [拡張フレキシブルスポット] にして、任意の場所に測距枠を移動します。

タッチ操作

モニター撮影時のタッチ操作をタッチパネル操作と呼び、ファインダー撮影時のタッチ操作をタッチパッド操作と呼びます。

タッチ操作の設定

MENU → (セットアップ) → [タッチ操作] → [切] 以外の希望の設定を選ぶ。

■ モニター撮影時：タッチフォーカス（タッチパネル操作）

静止画または動画撮影時、モニターにタッチするだけでフォーカス位置や測距枠の位置を変更できます。

操作方法

- 1 モニターにタッチする。
[フォーカスエリア] が [ゾーン]、[フレキシブルスポット]、[拡張フレキシブルスポット] のときは、タッチで測距枠の移動が可能。

ヒント

[フォーカスエリア] が [ワイド] または [中央] の場合、[中央ボタン押しロックオンAF] が [入] だと中央ボタン押しロックオンAFが働きます。タッチ操作でロックオンする被写体を選択することが可能です。被写体が動いている場合はこちらがおすすめです。必要なければ [切] にします。

- 2 シャッターボタンを半押しすると枠内にピントが合うので、シャッターボタンを押しこんで撮影する。

ピント合わせ解除方法

をタッチするか、コントロールホイールの中央を押す。

■ ファインダー撮影時：タッチパッド操作

液晶を指でなぞり、フォーカス位置を移動できます。指の移動量に応じてフォーカス位置が動きます。

MENU → (セットアップ) → [タッチパッド操作エリア] で、モニターのどの部分を使用するかを選べます。鼻などがモニターに触れることによる誤作動を防ぐことができます。

カスタムキー（撮影）

本体上部の人差し指が届く位置には撮影前に呼び出す機能を、本体背面の親指が届く位置には撮影時に押す機能を割り当てると撮影がしやすいです。項目によってはFnボタンにも設定できますので、撮影スタイルによって自由にカスタマイズしてください。

カスタムキー設定方法

- 1 MENU → (撮影設定2) → [カスタムキー（撮影）] を選ぶ。
- 2 希望のキーを選び、機能を登録する。

■ カスタムキー設定例



フォーカスホールドボタン：
レンズのフォーカスホールドボタンにも機能を登録できます。瞳AFやAFオンがおすすめです。



レンズのフォーカスホールドボタン一例（SEL70200GM）

各種設定の説明

■ 撮影モード

P (プログラムオート)

露出 (シャッタースピードと絞り) はカメラで自動的に設定されるモードです。ホワイトバランスやISO感度などの撮影機能は任意に設定できます。

A (絞り優先)

絞り値 (F 値) を任意に設定できるモードです。絞り値を決めると、適正な明るさになるように、シャッター速度とISO感度はカメラで自動的に設定されます。

背景をぼかしたいときや、画面全体にピントを合わせたいときなど、ピントの合う範囲を調整したいときに適しています。

S (シャッタースピード優先)

シャッター速度を任意に設定できるモードです。適正な明るさになるように、絞り値 (F 値) とISO感度はカメラで自動的に設定されます。

動きの速いスポーツや動物をぶれずに写したり、水や光の軌跡を写したいときに適しています。

■ フォーカスモード

AF-S (シングルAF)

ピントが合った時点でピントを固定するモードです。

風景や花、止まっている人物など動きのない被写体のときに適したモードです。

AF-C (コンティニュアスAF)

シャッターボタン半押しの間、ピントを合わせ続けるモードです。動いている被写体をカメラで追いつけるときの、動きが予測しづらい被写体のときに適したモードです。

AF-A (AF制御自動切り換え)

被写体の動きに応じて、[AF-S] と [AF-C] が切り替わるモードです。シャッターボタン半押しで、被写体が静止していると判断したときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピント合わせを続けます。

DMF (ダイレクトマニュアルフォーカス)

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動でピントを微調整できます。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりもすばやくピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

MF (マニュアルフォーカス)

手動でピントを合わせるモードです。星空など、オートフォーカスではピントが合いにくいシーンでは、マニュアルフォーカスで撮影します。

■ フォーカスエリア

☒ ワイド



モニター全体を基準にピント合わせをします。

子どもや動物、スポーツなど、被写体の動きが予測しにくいときに適しています。

☐ ゾーン



モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせます。

ゾーンは9個のフォーカスエリアに分かれているので、特定の範囲内で被写体が動くときのピント合わせに適しています。

☒ M フレキシブルスポット 拡張フレキシブルスポット



モニター上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせます。測距枠のサイズはS,M,Lから選択ができます。

拡張フレキシブルスポットは、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、ピント合わせの範囲をフレキシブルスポットの周辺まで拡げてピントを合わせます。

☐ 中央



モニター中央付近の被写体にピントを合わせます。

フォーカスロックと併用して、好きな構図で撮影したいときに適しています。